



「森の家」 冬期営業について

「森の家」、冬期間は毎週土日と祝日の 10 時～16 時開館となります。

公園のトイレはレストハウス、ピクニックテラス脇、第 2 駐車場、ちびっこ広場の 4 カ所が閉鎖のため、冬期間のトイレは展望台西側公衆トイレか「森の家」(開館時)をご利用ください、よろしくお願いします。

エゾユキウサギに会いたい！！

2017 年 1 月 7 日(土)、今年初の「早朝野鳥観察会」の際にエゾユキウサギの足跡が見つかりました。ウサギ、旭山にもいるんですね、見たこと、出会ったこと、ありますか？

●エゾユキウサギとは

ウサギ目ウサギ科ノウサギ属ユキウサギの亜種で、日本では北海道にのみ分布し、本州以南にいるノウサギとは別の種です。

右写真のように夏は体毛が茶褐色ですが、その名の通り冬になると全身真っ白な毛に覆われます。

夜行性で日没後に活動を開始し、日の出までには活動をやめますが、姿を見るのが難しいのはそのためです。

また、積雪のない時期にはほとんど足跡が残ることがないため、旭山では存在自体もあまり認識されていないようです。

ただし、繁殖前に相手を探す時期には昼間も活動します。

右の写真は道北で 5 月に撮影したものです。



●どうして旭山では少ないの？

エゾユキウサギは本来草原や農耕地など開けた場所に住む動物ですが、旭山は山地の森林であり開けた場所が少なく、ウサギが住みやすい環境ではない、ということなのでしょう。

ただし山地の林道にいたり、旭山でも足跡が見られるので、少しでも開けた場所があれば森林にもいることはいるのです。

●何を食べるの？

草食性で主に草を食べますが、にんじん好きというイメージ通り農作物も食べます。

積雪期は樹皮や笹それに雪の下から草など植物を掘り起こして食べます。

●エゾユキウサギの足跡

右写真は、冬になると見られるエゾユキウサギの足跡。

特徴的な形で大きく、外側を枠にはめると 40cm×60cm くらいになります。

この足跡は写真奥(上)から手前(下)に向かって進んでいるもので、手前側に穴が 3 つあるうち外側の 2 つが後ろ足、真ん中にタテに 2 つ続くのが前足の跡。

左右の前足を少し時間差をつけて前後に雪面に着き、そこより前に後ろ足を着いてジャンプしながら前に進みます。

旭山では少ないエゾユキウサギの足跡、冬のラッキーアイテムかもしれません。



●2 円切手

エゾユキウサギは 3 年前の 2014 年から目にする機会が増えました。

といってこれは切手の話、消費増税と郵便料金改定により使用することが増えた 2 円切手の図柄に、新たにエゾユキウサギが採用されました。

しかし、今年 6 月に郵便料金が改訂されるとなったため、エゾユキウサギの 2 円切手は今後見ることが少なくなるかもしれません。

姿は有名だけど意外と見られる機会が少ないエゾユキウサギ。

旭山でも日の出前か夜にひょっこり出会えるといいですね。



「早朝野鳥観察会」 次回の日時

☆「早朝野鳥観察会」 2017 年 2 月 11 日(土) 8 時～10 時頃まで

参加費 100 円(保険代) 定員:15 名(先着順) ■見られる鳥:アカゲラ、ベニヒワ、エナガ等
※双眼鏡貸し出しします(無料)。数に限りがあるのでご希望の方は参加申込時にお申し付けください。

◎「早朝野鳥観察会」は 2 月以降毎月第 2 土曜日を予定しており、3 月は 11 日に行います。

2017 年は 4～6 月にその他数回野鳥観察会を行う予定です。

2017 年 1 月の旭山野鳥情報

- シマエナガ:まだまだ見られます。お問い合わせも多い鳥です。
「森の家」の周りによく来ますが、午前 7～9 時台が狙い目です。
- ベニヒワ:1 月に見られた推定 150 羽以上の大群はいなくなったようですが、20 羽ほどがまだ残っており比較的よく見られます。
シラカンバの種子を食べていることが多いです。
- アトリ:1 月は旭山の近くで数羽がよく見られましたが、旭山では 1、2 羽が時々見られるくらいです(右写真上)。
- マヒワ:少数の群れが時々見られます。
- ウソ:声がよく聞かれ、近くで見られる機会も増えてきた印象です。
- ツグミ:数は少ないですが「キュキュッ」という声がよく聞かれます。
- キクイタダキ:展望台の松に時々やって来ます(右写真下)。
- キバシリ:1 月下旬から「チリチリチュリ」というか囀りが聞かれます。
- ハシブトガラ:12 月下旬から囀りが本格化し今はよく聞かれます。
- ヤマガラ:「チーリーツー」とワルツの囀りを始めました。
- ヤマゲラ:「ピョップピョップピョップ」と大きな声がよく聞かれます。
- クマゲラ:旭山ではこの冬も時折近くで見られています。



ダイヤモンドダストとサンピラー

「ダイヤモンドダスト」または「細氷」とは、気温が氷点下 10℃を下回った湿度が高めの日に空気中の水分が凍り付いて結晶となり、太陽光を受けてきらきらと輝く現象です。

1 月 24 日(火)、札幌でも最低気温が氷点下 13℃まで下がりましたが、その日は市内でもダイヤモンドダストが見られたとの情報があります。

旭山ではどうでしたか? 見た方がいらっしゃればぜひ情報お寄せください。

「サンピラー」は「太陽柱」とも呼ばれ、太陽からまっすぐ上に光の柱が伸びたように見える現象です(右写真は 2013 年 1 月 23 日に旭山で撮影)。

これも空気中の水分の結晶に起因するものですが、夏でも上空は気温が低いいため見られるそうです。

「サンピラー」はもうひとつ、「ダイヤモンドダスト」が太陽光を受けて柱状に輝く現象のことでもあり、前者の「サンピラー」は遠くに、一方後者は近くに見られるもので、同じ言葉が 2 つの現象を表しています。

氷点下 10℃以下になれば、旭山でもうまくすると 2 つの「サンピラー」が見られるかもしれません。

旭山でいつか「ダイヤモンドダスト」の「サンピラー」を撮影したいものです。



編集 後記

寒い寒いといっても 2 月 4 日は「立春」、暦の上ではもう春です。

気温でみれば確かに 2 月は 1 年でいちばん低い時期。

→「冬フェス」のイグルー

しかし日の入り時刻が遅くなってくると、春の近づきを感じます。

体も寒さに慣れ、気持ちも前向きになっていくのが 2 月ですね。



公式サイト

「アカゲラ通信」 第 39 号 2017 (平成 29) 年 1 月 29 日発行

発行:(公財) 札幌市公園緑化協会 旭山記念公園管理事務所

住所:〒064-0943 北海道札幌市中央区界川 4 丁目

連絡先 電話 011-200-0311 (土・日・祝日 10 時～16 時) FAX011-200-0351

<http://www.sapporo-park.or.jp/asahiya/>